



さと  
やすらぎの郷



若かりし日の三宅様ご夫婦 (本誌内「それぞれの物語」に登場)

Respectively

# それぞれの 物語

Story  
家族インタビュー

やすらぎの郷は人の想いを支えます

西棟で生活されている  
三宅秀子様のご主人  
(ケアハウス入居者)より  
お話しを伺いました。



## 2人の出会い、馴れ初め



私が料理の道に進んで、色々なお店で修行している頃、自分の師匠から紹介されたのが秀子です。秀子は相之島の漁師の家に生まれ育ったので、いつでも好物は刺身です。出会った頃は割烹料理の店で働いていました。

知り合ってから、一年後、私が24歳、秀子が22歳

の時に結婚式を挙げました。当時は、春吉橋の近くで屋台を営んでいたもので、近くにアパートを借りて二人の生活が始まりました。景気に左右される飲食業なので安定という時期がなく、佐賀県の東背振村、鳥栖、福岡の小郡など色々な土地で、国立病院の食堂や、大衆割烹のお店、研修センターの食堂、ホテル付ゴルフ場の厨房など様々な場所で働きながら、授かった3人の男の子を育てました。

次々と職場が変わる私に「サラリーマンと結婚すれ

ば良かった」と愚痴ることもありましたが、秀子は子育てをしながら、夜には愛想の良い笑顔で店の手伝いをしてくれ、また家計を助けるために、マルキョウの惣菜売り場でも9年間ほど働いていました。本当に働き者でした。

私が57才の頃、宗像で「銀鱗」という大衆割烹店を二人で始めました。生け簀もあり、漁師だった秀子の兄から仕入れた魚などの料理を、私が造り、お客様とのやり取りは秀子が笑顔でこなして、それなりに繁盛していました。忙しく休みの日は遠出することはできなかったもので、よく二人で鐘崎漁港に魚釣りに行っていました。



## 秀子氏の変化、ご主人の変化、家族の関わり

お店を始めて2年ほどして、秀子がくも膜下出血を発症し44日間入院しました。

私もショックを受けましたが、元気になるようにと、44日間の入院期間中は毎日、お昼に刺身を届けました。

退院後、お店を手伝えるようになったものの物忘れが目立つようになり、できないことに対して私は腹を立てたり怒ったりしてました。秀子がそんな状況だったので次男が店の手伝いをしてくれました。自分の体調不良もあり、どうにかお店を続けていましたが、自分が65才の時に脳出血で倒れてからはお店を続けることができなくなりました。

救急搬送してくれたのは同居していた三男でした。

仕事を辞めて夫婦での生活となりましたが、二人では心配と、長男が自分たちが住んでいる近くにアパートを借りてくれて、介護サービスを利用しながら、また子供たちの支援を受けながら在宅生活を続けていました。



## 入所されて

在宅での介護等が難しくなって来た為、長男から施設等の入所の勧めがあり、私もこれ以上息子に迷惑を掛けたくなかったので、いろんな施設の見学をしました。その中でやすらぎの郷を選択したのは、自分がケアハウス、秀子が特別養護老人ホームと夫婦二人で入所出来たからです。

思えば、これまでの人生は常に秀子と一緒にでした。夫婦二人での生活が思い出深く、秀子には感謝の気持ちでいっぱいです。仕事も一緒、家でも一緒、休みも一緒の生活を長年続け、二人でやすらぎの郷に入所した現在、新型コロナの影響により面会することもままならない状況が続いています。

今は「早くコロナが落ち着いて、何も話さなくて良いから、二人で一緒に過ごせる時間を持ちたい」という想いを胸に、我慢の時だと自分に言い聞かせています。

この間、秀子とオンラインで面会しましたが、若々しくなったように感じました。

これからも秀子をよろしくお願ひします。そして面会が自由にできる日が来ることを願っています。

## インタビューを終えて

お二人の出会いからこれまでの生活史をお聞きして、夫婦二人三脚でやってこれ、様々な困難を乗り越えて来たことに、お二人の強い絆を感じました。また新型コロナにより、思うように会うことが出来ないことを大変心苦しく思います。私たちが今後のお二人の生活に、一役を担うことが出来るよう支援させて頂きます。



## はじめまして井下です。

*Introduction of newcomers*

私は、4月よりやすらぎの郷に参りました事務課の井下真梨那と申します。

新社会人として、ワクワクする気持ちもありながらも、「社会人としてきちんとやっていけるだろうか?」という、大きな不安を抱えながら4月を迎えました。早いもので入社して4か月が経ち、「あの時こうすればよかった…」と、反省することもあります。「もっと頑張ろう!」という前向きな気持ちで日々仕事ができています。また、職員とご利用者、そしてご家族との関係性をみていると、私も信頼される職員になりたいと強く感じる毎日です。

私は大学時代に、老人ホームへボランティアに行かせていただいております。その際に、どこか閉鎖的な雰囲気を感じる事が度々ありましたが、やすらぎの郷に来て最初に感じた第一印象は「温かい」でした。やすらぎの郷は、たくさんの緑があり自然に囲まれた開放的で温かな雰囲気、また、ご利用者や職員の笑顔が多いと感じました。やすらぎの郷は、それぞれのご利用者に合わせた暮らしのかたちがあり、自分らしく居られる場所であると思います。私もそんなやすらぎの郷の仲間に入ることができ、まだまだ至らない点も多くあるとは思いますが、ご利用者の皆様のより良い暮らしを全力でサポートできるように頑張ってお参ります。見かけましたら、声を掛けていただくと、とても嬉しいです。

これからどうぞよろしくお願ひいたします!

# Professional ケアハウスの仕事人 副島 博氏



やすらぎの郷の庭には、さまざまな種類の果実がありますが、今年初めてリンゴの木にしっかりした実がなりました。今は青々としたリンゴですが、これからどのように色づくのか?楽しみです。



スモモ

ほかにもブドウやキウイ、スモモなどがあり、これらの樹々を育てているのが、ケアハウスで生活されている副島さんです。ブドウの袋付けやキウイの受粉など、手間暇かけて育ててくれます。果実だけでなく、写真のユリや胡蝶蘭などの花も見事に咲かせてくれます。さらに理髪師さんなので、ケアハウスの方の散髪もされており、まさにケアハウスの仕事人です。あっぱれ!!

いつまでもお元気で!!



ユリ



リンゴ



朝顔



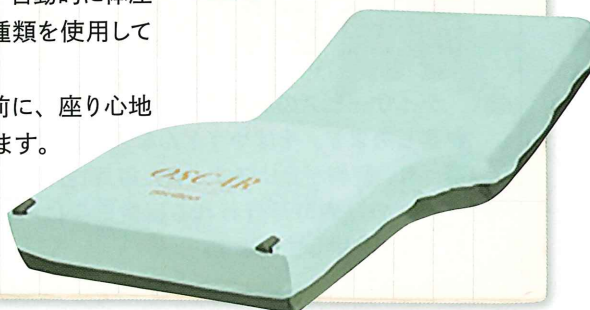
キウイフルーツ

## 褥瘡委員会活動について

毎月1回、褥瘡委員スタッフ（看護師2名、介護職員4名、理学療法士1名）で話し合いを行い、入所者皆様の状態に合わせ、苦痛を伴わない安楽な姿勢で過ごしていただくことが出来るよう、マットレスの選択や、体位保持の評価を実施しています。使用するマットレスは、自動的に体圧を分散するマットレスが8台、その他に体圧分散マット7種類を使用しています。

褥瘡ができてから取り組むのではなく、褥瘡ができる前に、座り心地や寝心地を確認し、取り組むことが、防止につながっています。

**【現在、床ずれで医師治療を必要とするご利用者は、0.008%】**



# デイサービス

## Point レクリエーション紹介



Day Service



コロナの感染対策のため、以前のように利用者様の皆さんと一緒にゲームや声を出すカラオケを実施することが難しくなりました。ですがレクリエーションを楽しんでいただくため、席の配置を変えたり声を出さずに参加できるプログラムを考えたりして工夫しています。



また、やすらぎの郷はたくさんの自然に恵まれています。天気の良い日には外に出てお花と一緒に記念撮影をします。また職員によるミニコンサートが開催される日もあり皆様に喜ばれます。



※やすらぎの郷のデイサービスには、生活機能の維持・向上を目的として通信カラオケ機器を活用しており、音楽・体操・脳トレなど500以上のプログラムを楽しめます。

※作業療法として毎月の制作にも力を入れており、利用者様の皆さんと協力しながら立派な作品を完成させています。



## Point 御食事紹介



デイサービスの昼食は日替わりで様々なメニューが楽しめます。そばやうどんなどの麺類の日は特に喜ばれ、評判が良いです。また毎月1日には赤飯、イベントの日や毎月行われる誕生日会には特別なメニューを提供しています。





## 宇美商業高校 家庭科クラブ オンライン交流会

令和  
4年度



**今**年も宇美商業高校家庭科クラブの皆さんと、オンライン交流会を行いました。以前は施設内で直接交流を行っていただいていたのですが、ここ数年は新型コロナウイルスの影響によりオンライン形式で行っていただいています。「コロナ禍でも心は繋がっている」を合言葉に交流をしていただいています。

第1回目は「海の中の生物をバルーンアートで表現する」でした。参加された皆様は映像を見ながら、思い思いに言葉をお話し楽しんでいました。

家庭科クラブの皆様、本当にありがとうございました。



## 草刈りボランティア

**令**和4年4月29日に天理教福岡教区福岡東支部の皆さん約20名が、ボランティアとして、施設敷地内の草刈りを行っていただきました。

当日はほぼ豪雨に近いような空模様の中、隅々まで丁寧に草刈りを行っていただきました。

ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



## ボランティアDAY2022を実施しました!



**赤**十字運動の推進として、毎年実施しているボランティアDAY。5月の赤十字運動月間に合わせて、今年もやすらぎの郷では施設周辺のゴミ拾い、草取りを行いました。約30分間清掃し、合計17袋のゴミが集まりました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やすらぎの郷職員のみでの活動となりましたが、来年はボランティアのみなさんと一緒に実施できることを願っております。



日本赤十字社福岡県支部  
特別養護老人ホーム

やすらぎの郷

〒811-2208 福岡県粕屋郡志免町大字吉原600番 TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135  
ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

令和4年8月発行